

牡牛座 レーニンの肖像 (2001)

TELETS
TAURUS

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 ロシア/日本

色彩 Color

時間 94分

初公開日 2008/02/02

公開情報 パンドラ

【キャッチコピー】

「太陽」のA・ソクーロフ監督が描く
最も美しく謎めいた孤独
最後の巨大な星が落ちていく――

【解説】

ロシアを代表する映像作家アレクサンドル・ソクーロフ監督が歴史上の人物を描く全4部作のうちの1本で、第1作ヒトラーの「モレク神」と第3作昭和天皇ヒロヒトの「太陽」の間につくられたシリーズ第2弾。歴史上初の社会主義政権を樹立したロシアの指導者レーニンにスポットを当て、病に倒れ志半ばで権力の座を手放した男の孤独な晩年の1日を静謐に綴る。

1922年、モスクワ郊外のゴールキ村。1918年の暗殺未遂事件の際の被弾が原因で、以降たびたび発作に見舞われ、健康を悪化させていったレーニン。右半身は麻痺し、まだらボケも進行し、この地で長らく療養を続けている彼のかたわらには、もはや妻と妹のただ2人しかいなかった。いまや権力はスターリンが掌握し、レーニンの療養生活は、一方でスターリンの厳しい監視下に置かれた軟禁生活となっていた。

【クレジット】

監督	アレクサンドル・ソクーロフ	Aleksandr Sokurov	
製作	ヴィクトール・セルゲーエフ	Viktor Sergeyev	
	オ谷遼		
製作総指揮	ウラジミール・ペルソフ	Vladimir Persov	
脚本	ユーリー・アラボフ	Yuri Arabov	
撮影	アレクサンドル・ソクーロフ	Aleksandr Sokurov	
美術監督	ナターリヤ・コチェルギーナ	Natalya Kochergina	
音楽	アンドレイ・シグレ	Andrey Sigle	
出演	レオニード・モズゴヴォイ	Leonid Mozgovoy	病人（レーニン）
	マリヤ・クズネツォワ	Mariya Kuznetsova	病人の妻（クルプスカヤ）
	ナターリヤ・ニクレンコ	Natalya Nikulenko	マリーヤ（レーニンの妹）
	レフ・エリセーエフ	Lev Yeliseyev	医師
	セルゲイ・ラジューク	Sergei Razhuk	客人（スターリン）